



国際ロータリー第 2790 地区 奉仕プロジェクトセミナーの報告

2022 年 8 月 20 日（土）

地区プロジェクトセミナーが TKP ガーデンシティ千葉で行われましたが昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み会場、オンラインのハイブリッド形式での開催となり福原会長、宮武幹事、奉仕プロジェクト委員 角谷の 3 名でオンライン参加しました。寒郡ガバナーノミニーをはじめ今年新たに地区に設置された環境委員をはじめ各委員会の委員長よりの挨拶ののち 3 部構成にて行われました。

第 1 部は千葉県の環境生活部の石崎次長から「千葉県における CO₂削減の現状と対策」のテーマで県のカーボンニュートラルに向けての取組等が紹介されました。中でも事業者向けの“CO2CO2 スマート宣言”は 2016 年 10 月に始まりましたが現在も随時登録の募集をされていて各種助成金もあるので活用の検討をお願いされました。

第 2 部は株式会社ワンプラネット・カフェのエクベリ聡子代表取締役から「サステナビリティとロータリーの重点分野」というテーマで SDG s の目標を土台から“環境”“社会”“経済”と積み上げた SDG s ウェディングケーキモデルの紹介や人間の活動のテクニカルサイクルと自然が行うバイオサイクルを組合わせて”還すことができる以上に取りらない、使わない“サーキュラーエコノミーについてのお話がありました。SDG s の 17 の目標については多くの方がみられていると思いますが、その下に 169 のターゲットというものがあり、これを 1 つ 1 つ見ていくと意外と自分たちの行動の中で SDG s につながる行動があったりヒントがみつかったりするのでは 1 度ゆっくりご覧になることを薦められていました。

第 3 部はロータリー希望の風奨学生の上野利恵子様から「東日本大震災と私」のテーマで当日の様子などの講演がありました。震災から 11 年がたち町や設備の復興は進んでも人の心の復興はまだまだ道半ばであること等を時折言葉をつまらせながらお話しされました。彼女自身は当時小学生で震災で父親が行方不明になり、その 5 年後に母親が病気で亡くなり兄弟もおらず 15 歳で孤独の身となりながら叔母を頼りに学校に通いました。その後成人を迎えその叔母から「これからは金銭的なことも自分で管理しなさい」と言われ資料を受け取ったときに初めて今まで奨学金等様々な人からの支援で自分が学校に通いまた生活できていた事実を知り、被災当時は自分よりも大きな被害があった人がいる中でそういった方たちと比べると自分の体験を話すことは違う気がして今まであまり震災のことを話す気にはなれなかったそうですが受けた支援の感謝の気持ちを伝える意味でも体験談を語ろうという思いになられたそうです。しかし、思い返すと当日のことは比較的鮮明に覚えているもののその後しばらくのことは記憶が曖昧だそうです。震災が過去の記憶になりつつある中でまだ現在進行形の方々もいるのだと痛感しました。

奉仕プロジェクト委員会 & ロータリー財団・米山記念奨学会委員会
委員 角谷 太一